J.S.V.R.
ニュースレター

No.32
2025.11
発行人　日本バレーボール学会
会長　黒　川　貞　生
発行日　2025年11月１日
事務局
〒422-8581 静岡市駿河区弥生町6-1
常葉大学静岡草薙キャンパス 高根研究室
Tel&Fax 054-297-6264
E-mail:jsvr.office@gmail.com
https://jsvr.org/

日本バレーボール学会
The Japanese Society of Volleyball Research

巻　頭　言

日本バレーボール学会副会長
石手　靖（慶応義塾大学）

学会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素より本学会活動に対し格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

今夏は全国的に猛暑日が続き、過去最高の平均気温となりました。この異常な高温の下においては、屋内外を問わず日常生活や各種活動に影響があったことと存じます。加えて、台風や線状降水帯などによる集中豪雨が各地を襲い、それにより被災された皆様には謹んでお見舞い申し上げます。

さて、ここにJ.S.V.R. ニュースレター第32号を発行することができました。2025バレーボールミーティングのご報告、調査研究費申請および機関誌「バレーボール研究」への投稿募集など是非ご一読頂き、学会活動への積極的なご参加と学会員相互の情報共有にお役立て頂ければ幸いです。

先月、8月17日に高知県高知市にて開催された2025バレーボールミーティングには、小職も現地にて参加させて頂きました。SVリーグのアカデミーでご活躍の指導者の方々を講師としてお招きし、午前のご講演と午後のオンコートレクチャーを通して、指導の重要性と今後の課題をお聞きすることができました。また、地元高知県及び四国地方のバレーボール関係者の皆様とモデルチームとしてご協力頂いた高校生諸君の積極的でかつ心のこもった運営により、とても興味深いミーティングであったと思います。

話題は前後致しますが、今年2月25日と26日の2日間に渡り、慶應義塾大学日吉キャンパスにて、「PARIS 2024からLA 2028へ」というテーマを掲げ、日本バレーボール学会第30回記念大会を開催致しました。川合俊一氏（日本バレーボール協会会長）をはじめとした講師の皆様から、昨今のバレーボール界の状況やスポーツ全般の普及や選手育成について、貴重なご講演を頂くことが叶いました。今回の大会で学会大会の開催が30回を数えたことは、諸先輩方のご苦労とご尽力の賜物であり深く感謝と敬意を表するものであります。大会当日には、本学会の前身であるバレーボール研究会の立ち上げから携わって来られた遠藤俊郎特別顧問や川合武司顧問にもご参加頂き、大会の現場をご覧頂けたことはとても喜ばしいことと思っております。大会実行委員会副委員長の沼田薫樹氏（大阪体育大学）と根本研氏（日本体育大学）が中心となり準備運営を進め、ポスター発表も含めて活発かつ有意義な学会大会となっ

たと自負しております。ご参加頂いた多くの皆様、そして関係各位に対してこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

近年の男女日本代表チームの活躍は目を見張るものがあります。バレーボールを観る、する、支える人々が増えることを望みます。そして、学校の部活動の地域への移行などの新たな取り組みや課題が進んでいます。学会ではこのようなバレーボールを取り巻く様々な変化や課題に対して常に問題意識を持ち、科学的に捉え、そしてそのことで、一人でも多くの皆様が本学会にご興味を示して頂けるように努めてまいります。今後とも日本バレーボール学会へのご指導ご鞭撻の程何卒宜しくお願い申し上げます。

2025 バレーボールミーティング報告

概要: 本事業は、バレーボール学会員はもちろんのこと、バレーボールを愛好する選手・コーチ同士が現場で抱える実践的な課題を共有し、互いの活動から学び合う場を創出することで、選手・コーチの継続的な学びの支援を目的としています。また今回は、講師としてSVリーグのアカデミーで指導者として活動している岡崎大志氏（ヴィクトリーナ姫路）、松永理生氏（サントリーサンバーズ大阪）、梅川大介氏（大阪ブルテオン）を招聘し、現在の国内ユース・ジュニアのバレーボール指導の実際を紹介しながら、バレーボール指導のアップデートを図り、日本のバレーボールコーチ全体の資質を向上させることを目的としています。

日　時：2025年8月17日（日）10:00〜16:00

主　催：日本バレーボール学会

会　場：高知・CHRESセリーズ 体育館、オンライン

参加者総数：対面参加者22名、オンライン参加者最大数77名、申込121名

〈登壇者〉

パネリスト: 梅川大介氏（大阪ブルテオン）

パネリスト: 松永理生氏（サントリーサンバーズ大阪）

パネリスト: 岡崎大志氏（ヴィクトリーナ姫路）

総合司会: 根本 研（日本体育大学 教授）

【ミーティングスケジュール】

時　間	内　容
9：30	受付開始
10：00〜10：10	開会
10：10〜10：40	基調講演 ①　担当：岡崎氏
10：45〜11：15	基調講演 ②　担当：松永氏
11：20〜11：50	基調講演 ③　担当：梅川氏
11：50〜12：50	昼食
12：50〜13：35	オンコートレクチャー①　【ディフェンス】担当：岡崎氏
13：45〜14：30	オンコートレクチャー②　【オフェンス】担当：松永氏
14：40〜15：25	オンコートレクチャー③　【ゲームライクアプローチ】担当：梅川氏
15：35〜15：50	意見交換会
15：50〜16：00	閉会

1. 基調講演概要

1-1. 岡崎大志 氏 ― 「社会性とデータをつなぐ指導」

岡崎氏は、自身が監督・アカデミー指導者として積み上げてきた経験をもとに、データの活用と人間教育の両立について語った。

(1)データによる見える化

選手の決定率や効果率といった数値を選手自身にフィードバックし、成長を“実感できる”形にすることが重要だと強調。単に勝敗を追うのではなく、個々の努力や改善点を客観的に示すことで主体性を育む。

(2)人間性の育成

「プレッシャー耐性」や「理不尽に耐える力」も、部活動やクラブ活動で養われる大切な資質であると指摘。ただし、その在り方が教育的に正しいのかどうかは常に問われ続けるべきであり、自身の過去の指導を振り返り「体罰の危険性」についても率直に自己批判を行った。

(3)現場の課題感

選手が指導を“受け身”で終えてしまう現場が少なくないことへの危機感を表明。指導者は「問いかけ」と「振り返り」の場を構造化し、選手が自ら考える仕組みを整える必要があると訴えた。

1-2. 松永理生 氏 ― 「思考する力とリーダーシップ」

松永氏は、監督として高校・大学・実業団を歴任した経験から、ユース世代に必要な要素を提示し

た。

(1)思考力の育成

これからの選手は「与えられた練習をこなすだけ」では通用しない。戦術理解が浅い状況でも、自ら判断してプレーする力を持つ選手こそが次世代を担うと語った。

(2)リーダーシップとメンタル

チームには必ずしも“声が大きいリーダー”が必要ではない。むしろ、周囲の雰囲気を整えたり、試合中に冷静さを保つ役割を果たせる存在が大切であり、そうした資質を日常の中で育てるべきだと述べた。

(3)指導者の姿勢

成長の基準は「結果」ではなく「プロセス」に置くべきと強調。勝敗にとらわれ過ぎるのではなく、遠征や合宿といった非日常の経験を通じて人間的にも成熟させていくことが重要だと提案した。

1-3. 梅川大介 氏 ― 「未来を見据える評価と実践」

梅川氏は、勝利と育成を両立させる方策について言及した。

(1)未来志向の指導

目の前の勝敗に一喜一憂するのではなく、数年先を見越して「この選手がどのように成長していくか」を基準に練習や試合を設計する姿勢が欠かせないと語った。

(2)評価と振り返り

チームでは週に一度、必ず「振り返りと評価」の時間を設ける。選手自身が課題を言語化し、次週への目標を自ら設定するプロセスを通じて、指導者からの一方通行ではない学びを実現している。

(3)国際的視点

国内だけではなく、ユース世代から国際基準を意識する必要性を強調。フィジカル・技術・思考力は互いに関連し合うものであり、指導者も常にアップデートを怠ってはならないと訴えた。

2. オンコートレクチャー概要

基調講演後には、3名の講師によるオンコートレクチャーが行われた。テーマは「ディフェンス」「オフェンス」「ゲームライクアプローチ」の3つであり、各講師の現場知に基づいた具体的な実演が展開された。

2-1. 岡崎大志 氏 ― ディフェンスの構築

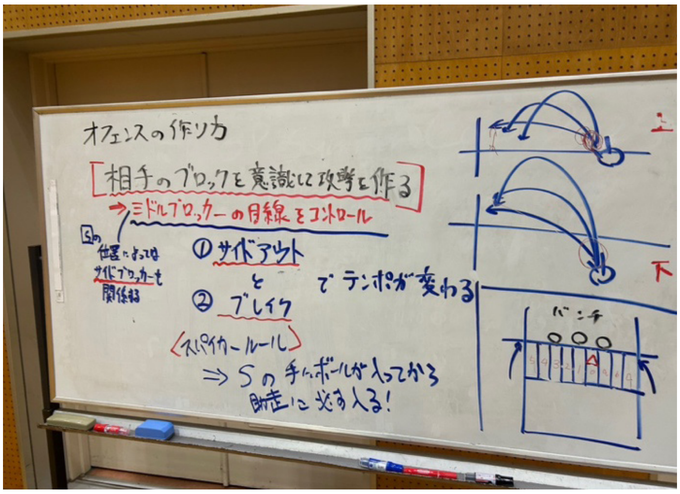
・守備は「ゾーン待ち」ではなく「ライン責任」で遂行する。
・フェイントやプッシュに対しても、落下点を待つのではなく「ライン上で処理」する意識を徹底。
・練習では3人レシーブ回し等の形だけのドリルを縮小し、実戦的配置の中で役割を固定。
・強打ディグでは「玉筋に面を出す」技術を強調し、選手の恐怖心を和らげる。
・練習後には「取れなかったライン」を選手自身が記録し、個別課題としてフィードバックする方法も提示された。

2-2. 松永理生 氏 ― オフェンスの多層化

・攻撃構築の鍵は「相手ミドルブロッカーの視線操作」である。
・ジャンプトスと非ジャンプトスの併用により、ブロックの読みを外し、攻撃の多彩さを確保する。
・レセプションが乱れても、両サイド・クイック・パイプの4枚攻撃を展開できる仕組みを整える。
・ブレイク時には返球位置を意図的にずらし、ライトへの短い速攻や前寄りパイプで1対1を生み出す。
・育成年代においては、まず「非ジャンプトスによる安定したテンポ」から始め、段階的にジャンプトスへ移行する指導が有効であるとされた。

2-3. 梅川大介 氏 ― ゲームライクアプローチ

・「リバウンドを取る」ことを最優先にし、スパイク失点を減らす。ネット際では押し合いやプッシュアウトといった細かな技術を徹底する。
・制約付きの3対3や4対4のゲーム形式を多用し、寄せ・押し合い・再攻撃を実戦的に繰り返す。
・アンテナを内側に設置したり、ラストボールは必ず打つルールを採用するなど、ルール設定によって判断力を鍛える。
・「レーン」概念を取り入れ、助走軌道上に守備を配置することで、実際の試合に近い攻防を再現。
・総じて「一度のディフェンス成功から相手に攻撃権を渡さない」ことを目標とする。



3. 総括

本セミナーでは、パネルディスカッションとオンコートレクチャーを通じて、以下のような共通認識が浮かび上がった。

(1)データと感覚の融合

客観的な数値を活用しつつ、最終的には選手自身の実感や思考を育てることが重要。

(2)「勝利」と「育成」の両立

短期的成果を追うだけでなく、未来を見据えた指導がユース・ジュニア世代には欠かせない。

(3)実戦を想定した練習の必要性

ディフェンス・オフェンス・ゲームライク、それぞれのテーマで共通していたのは「試合を意識した練習設計」であった。

(4)人間形成としてのバレーボール

技術習得にとどまらず、協調性やリーダーシップ、逆境に耐える力といった社会的資質を育む場であるという点が、三者に共通する信念であった。

学会としても、こうした実践知を共有し続けることが、育成年代からトップレベルまでの指導現場をつなぐ重要な役割を果たすと考える。

4. 終わりに

参加者からは「現場でそのまま応用できる内容が多かった」「技術の裏付けを理解した上で練習設計を考え直したい」などの声が寄せられた。実技と理論が融合した本セッションは、今後の指導者養成やチーム強化に大きく資するものであった。日本バレーボール学会は、今後もこうした実践的な学びの場を提供し、研究と現場の架け橋となる活動を継続していく予定である。

SUNTORY

日本バレーボール学会 第31回大会のご案内

主　催：日本バレーボール学会

主　管：日本バレーボール学会 第31回 大会実行委員会

テーマ：未来をデザインするバレーボール ― 観る楽しさから競う強さまで（仮）

期　日：2026年3月2日（月）、3月3日（火）

会　場：大阪体育大学

一般研究発表申込：2026年2月2日（月）まで

※大会要項は11月に公開を予定しております。

日本バレーボール学会 2026年度 研究助成申請要項

1．目的

本事業は、バレーボールに関する研究に対して助成を行い、研究の促進を図ることを目的とするものである。

2．採用件数・助成額

2026 年度の募集件数、助成額は以下の通りである。

採用件数 若干数 助成額 1 件 15 万円 (上限)

ただし、研究助成金を所属機関へ支払う間接経費／オーバーヘッドに充当することはできない。

3．研究テーマ・内容

研究のテーマ・内容はバレーボールに関する内容とする。また、あらかじめ研究テーマ・内容を設定して募集する場合もある。ただし、2026 年度については、特に研究テーマ・内容を設定しない。

4．申請資格

日本バレーボール学会会員の個人またはグループとする。

5．申請手続

※申請書については学会 web サイトよりダウンロードしてください

『研究助成申請書』に必要事項を記入し、申請期限までに以下のメールアドレスに、メール添付で送信すること。

(1) 申請期限 **2026 年 1 月 5 日 (月)（必着）**

(2) 申請書の送信先 E-Mail: atsutakano@tohtech.ac.jp

〒 982-8577 宮城県仙台市太白区八木山香澄町 35-1

東北工業大学 総合教育センター

日本バレーボール学会研究推進委員長 髙野淳司 宛

6．申請手続き上の注意

(1) グループで申請する場合、研究代表者が申請者となること。

(2) 研究代表者を含め、共同研究者の全員が、2025 年度までの年会費を納入済みであること。なお、特別会員 (顧問等) については、その限りではない。

(3) 別紙申請書における「5. 研究概要」は以下の項目について詳細に記載すること（文字数は任意）

①研究の背景（先行研究との関連性や研究目的とのつながり等を記載）

②研究の目的（この研究から明らかにできることについて明確に記載）

③研究の方法（手順、研究対象、スケジュール等がわかるように記載）

④研究のオリジナリティ

⑤この研究から期待できること

7．研究助成の決定

(1) 選考は、選考委員会での結果を受け理事会にて決定する。

(2) 選考に際しては、研究計画・方法の具体性、研究組織の適切性などを考慮するとともに、日本バレーボール学会の知的資産として共有できるものを優先する。

(3) 選考の結果は、総会にて報告され、その後、文書またはメールで通知する。

8．研究成果の報告等

(1) 研究期間は、2026年 4 月 1日～ 2027年 3月末日までとし、研究代表者は、その研究成果を2028年度発刊予定の機関誌『バレーボール研究』に報告書を掲載する義務がある（投稿は2028年2月まで）。なお、投稿に際しては、原則として日本バレーボール学会大会での発表を前提とする。
(2) 研究代表者は、研究助成の決算報告書を、研究期間終了後の翌月末までに、日本バレーボール学会に提出しなければならない。
(3) 研究成果の発表にあたっては、日本バレーボール学会研究助成に基づくものであることを明記すること。

日本バレーボール学会機関誌「バレーボール研究」第 28 巻への投稿論文を募集します!

本学会では機関誌「バレーボール研究」を毎年 6 月に発刊しています。バレーボールに関する研究業績の発表と、会員相互の情報交換の場として大いに活用していただきたいと思います。

独創的な原著論文はもちろんですが、会員の皆様方が日頃コートの上で指導されている指導法や実践記録、また授業や練習の実践例などの報告も掲載し、あらゆる角度からバレーボールの理論と実践の融合を図りたいと考えています。

なお、投稿に際しては投稿規定(既刊機関誌および JSVR ホームページに掲載)を参照の上、下記編集委員会宛に送付願います。投稿種類としては、1)総説、2)原著論文、3)実践論文、4)研究資料、5)指導実践報告、6)内外の研究動向、7)その他、があります。投稿の際は希望種別を明記するようお願いします。

投稿はオンライン(電子ファイル)で受け付けています。また、投稿は随時受け付けておりますが、当該年度の機関誌に掲載するためには、前年度の 2 月末までの投稿をお願い致します。3 月以降に投稿された論文については、査読・編集の日程の都合上、次年度の掲載予定となります。

会員の皆様から多くの投稿をお待ちしております。

オンライン投稿先
hirobumi@u-gakugei.ac.jp
日本バレーボール学会 編集委員会
委員長：高橋 宏文

賛助会員募集について

「日本バレーボール学会」の活動の趣旨に賛同し，事業を支援してくださる法人または団体を募集します。

１．賛助会員（企業および団体）

日本バレーボール学会は、「バレーボールに関する科学的研究とその発展に寄与するとともに、会員相互の情報交換、研究協力を促進することによって文化としてのバレーボールの発展をはかり、これによってバレーボールの実践に資することを目的とする」を理念とし発足されました。これからもバレーボールに関する科学的研究の発展に努め、学会大会等の開催、将来の研究者の発掘・育成、さらにはより広い領域の関係者との繋がりをつくることを目的とした学会運営に取り組みます。この趣旨をご理解いただき、賛助会員としての入会を賜りたくお願い申し上げます。

２．募集期間

会員の募集期間は、特に定めず、随時参加可能とします。

３．申込方法

賛助会員として日本バレーボール学会の事業をご支援いただける場合、下記メールアドレスにご連絡ください。改めて申込書を送付させていただきます。

申込先：y-yokoya@ic.daito.ac.jp
担当者：日本バレーボール学会 渉外委員長　横矢 勇一

４．会費

年会費は一口３万円といたします。賛助会員のお申込み確認、日本バレーボール学会での手続きが完了次第、詳細について担当よりご連絡させていただきます。なお、本学会の会計年度は１月１日から12月31日としております。

事務局便り

2024年4月より学会HPをリニューアル公開し、学会ロゴも作成致しました。引き続き、多くの皆さまにバレーボールに関わる様々な研究情報を提供していきたく思います。また、機関誌『バレーボール研究』は第26巻（2024年発行）より紙媒体での発行を止め、電子版のみの発行（J-STAGEへの掲載）となりました。是非、J-STAGEにアクセスし、今年度発行の第27巻をご覧ください。学会HPの「J-STAGE」バナーをクリックして頂くと、『バレーボール研究』最新巻にジャンプいたします。

学会HP「ライブラリ」のコーナーでは、会員によって出版されたバレーボール関係の書籍やDVDなどを紹介しております。書籍やDVDなどの情報がございましたら、事務局までお届けください。

会員の皆様宛にメールでのご連絡・ご案内をしております。メール未達の方におかれましては、メールアドレスの登録および変更申請をお願いいたします。

住所変更・所属変更があった場合は、学会HPの「登録変更フォーム」より送信してください（ページ・トップの「各種手続き」→「登録変更」）。ご本人からの申告がないと住所録が変更できないので、ご協力のほどお願いいたします。

年会費納入に関しましては、自動引き落としを選択することもできます。毎年6月に指定された口座から年会費を引き落とします。次年度以降、振込での納入の必要はありませんので、振込手数料や振込手続きが不要になります。別途お手続きの必要がありますので、ご希望の方には申込書類を送付いたします。事務局までご連絡をお願いいたします。

事務局アドレス　jsvr.office@gmail.com

＜年会費振込先＞

郵便口座名称：日本バレーボール学会

郵便口座番号：00240 － 2 － 66791

また、他の金融機関からの振込の場合、以下の通りになります。

銀行名　ゆうちょ銀行

金融機関コード　9900

店番　029

店名　〇二九店（ゼロニキュウ店）

預金種目　当座

口座番号　0066791

カナ氏名　ニホンバレーボールガッカイ

The Japanese Society of Volleyball Research